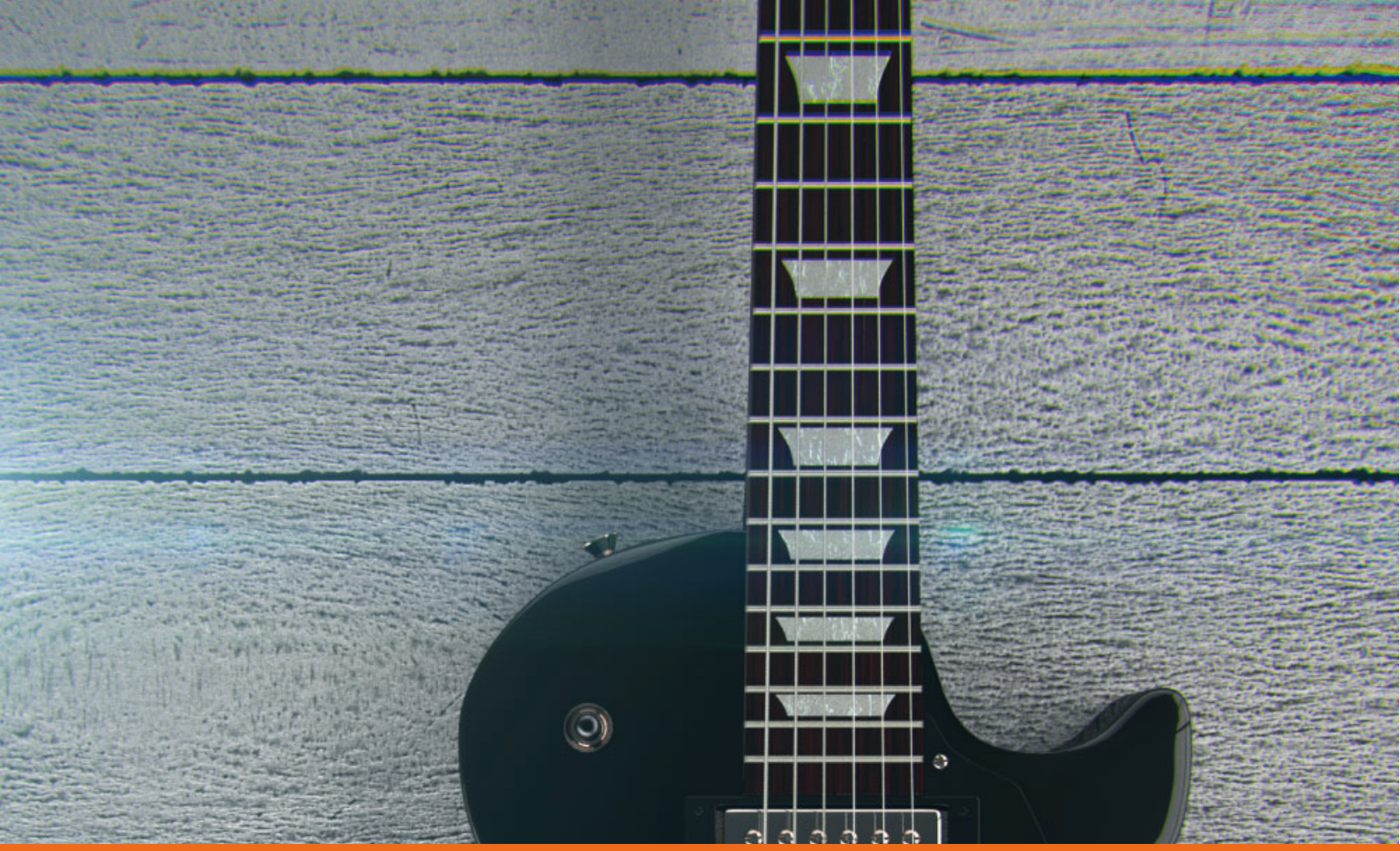


VS EGT v1.1.1

USER GUIDE

by **VERSUS** AUDIO

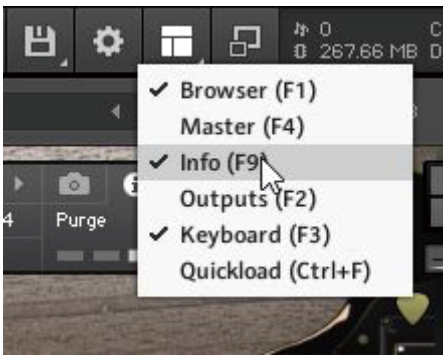
■ユーザーガイド概要 ——— 03
■ＰＬＡＹ画面の見方 ——— 04
■キースイッチとメインメニューの機能 ——— 07
■ノブの機能 ——— 13
■コード検索機能 ——— 14
■コード編集機能 ——— 15
■ＶＯＬＴＯＮＥ画面 ——— 16
■設定画面 ——— 17
■クレジット、お問い合わせについて ——— 22

■ユーザーガイド概要

VS EGT USER GUIDE（以下「当ガイド」）は、Versus Audio 製品の、ピック弾きエレクトリック・ギターおよびピック弾きエレクトリック・ベース音源「EGT シリーズ」についての説明をするものであり、Versus Audio EGT シリーズの全ての音源を対象として説明を行います。
当ガイドでは、例として「VS EGT BLACK LP.nki」を使用して説明していますが、その他の音源であってもEGT シリーズの音源であれば同じように解釈できるものとしています。
対象となるお持ちの音源を起動してこのガイドをご覧頂くことをお薦めします。
（※搭載する機能の有無や数や範囲については音源およびバージョンによって異なる場合があります。また、当ガイドの記述はバージョンアップや修正などによって予告なく変更される場合があります。当ガイドは、動作内容を保障するものではありません。当ガイドでは、母体となる「NI KONTAKT」本体そのものの機能等に関する説明は致しません。）

EGT シリーズの音源を含む製品：「EGT BLACK LP」「EGT BURST LP」「EGT TEXAS ST」

当ガイド以外にも音源上でも簡易的なヘルプを表示することができます。
KONTAKT の Info を表示してマウスカーソルを音源のノブやメニューに合わせると、ヘルプが表示されますので、併せてご活用ください。



■ＰＬＡＹ画面の見方

画像１

①フレットボード

画像１は、【Mode:Mono/Poly/Power/Octave】の状態での表示例です。音源を起動すると、まず始めにＰＬＡＹ画面が表示されます。ＰＬＡＹ画面では、フレットボードの上に、演奏範囲となる青色のマーカーと各弦の一番低い音を示すシアン色のマーカーが表示されます。マーカーは画像１の演奏範囲の鍵盤の色と同期してフレット上を移動します。シアン色の鍵盤を押すと、フレットボード上のシアン色のフレットの音を鳴らします。(※一部の奏法で物理的に不可能なフレットの場合は別のフレットを自動指定します。)【Mode:Power】や【Mode:Octave】では同時に複数の弦を鳴らすため、構成音の中で最も低い音の演奏範囲をマーカーで表示します。（【Mode】とは、画像１ **A**のことを指します。）

演奏範囲の鍵盤を押して音が鳴ると、フレットボード上に白いブロックを表示します。ブロックの中に実際に鳴っている音の種類（ＳＵ：サステインなど）を表示します。

②情報表示バー

主にキースイッチが操作された時に、押されたキースイッチに関する情報を表示します。画像１②の状態は、【Mode:Mono】のキースイッチが押されたことを示しています。

③ノブ類

（※別項「■ノブの機能」参照）

④ヘルプスイッチ

音源の状態に合わせたヘルプを表示します。キースイッチの確認などに使用します。

⑤パニックスイッチ

音源の動作が不安定なときやリリースキーを押しても音が鳴りやまないときにパニックスイッチを押すと、全ての音を停止し、発音や発音停止に関する内部変数を初期化します。

⑥ストローク・ピッキング方向表示

ピックの尖った方が下向きならばダウンストローク、上向きならばアップストロークを意味します。

⑦メインメニュー

奏法や弾き方、フレットポジションなど、音源をセッティングする上で最も重要な項目が並んでいます。
メインメニューにあるものは全て、キースイッチやコントロールチェンジでの操作に対応しています。
初期設定では誤操作防止の為キースイッチを非表示にしています。キースイッチを使用するときは表示をオンにしてください。
メニューのすぐ左にある小さいバー（画像１**C**）の色は対応したキースイッチの色を表しています。灰色のバーはキースイッチではなくＣＣで操作可能なものです。この小さいバーを押すと対応したキースイッチを有効または無効にします。キースイッチの位置確認として利用することも可能です。
（※各メインメニューの機能については、別項「■キースイッチとメインメニューの機能」参照）

⑧画面変更スイッチ

ＰＬＡＹ画面や設定画面やＶＯＬＴＯＮＥ画面に切り替えます。画像１はＰＬＡＹ画面が選択されている状態です。
（※設定画面については、別項「■設定画面」参照）
（※ＶＯＬＴＯＮＥ画面については、別項「■ＶＯＬＴＯＮＥ画面」参照）

⑨ベロシティ情報表示欄

現在の設定でのベロシティ情報を表示します。【Play:Multi】【Play:All】時にはベロシティにより奏法を選択できる為、各奏法が鳴るベロシティ範囲を表示します。ベロシティにより音量を指定する奏法では「Velocity to Volume」と表示されます。
【Legato】機能がＯＮのときにはレガート入力した後ろのノートのベロシティの強弱で音色が変わります。「Legato 100-127:HO/PO」はレガート入力時のベロシティ値が 100 ～ 127 のときにハンマリングオンやプリングオフを演奏するという情報を表示です。

画像２

画像２は、【Mode:Chord】にした状態です。

①フレットボード

画像２は、【Mode:Chord/Form】の状態での表示例です。【Mode:Chord/Form】では、演奏範囲となる青色のマーカーは表示されません。代わりに【CHORD EDIT】ボタンと、１オクターブ分の鍵盤を模したコード検索機能（画像２の**D**）が表示されます。コード検索機能左側のシアン色のスイッチで検索条件を指定し、適合する演奏範囲の鍵盤をシアン色にします。（※コード検索機能については、別項「■コード検索機能」参照）

【CHORD EDIT】ボタンを押すと、コード編集機能（画像２の**E**）が表示されます。（※コード編集機能については、別項「■コード編集機能」参照）

②情報表示バー

主にキースイッチが操作された時に、押されたキースイッチに関する情報を表示します。画像２の表示「Mode - Chord (Vel 1-64:Form 64-127:Chord Mode)」は、【Mode:Chord】に対応するキースイッチが押されたときに表示されるものです。ベロシティが６４未満のときは【Mode:Form】、ベロシティが６４以上のときは【Mode:Chord】となることを示しています。

■キースイッチとメインメニューの機能

この画像は、【Mode:Mono】の状態でヘルプを表示したものです。

ヘルプ上段①奏法選択【Play:●●】（C-2 ～ G-2）

奏法を選択します。【Play:Multi】【Play:All】の状態では、演奏範囲内の鍵盤のベロシティの数値によって奏法を指定します。（【Mode:Chord/Form】の場合はピッキングハーモニクスは鳴りません。）

一定の奏法に固定したい場合は、ヘルプ上段①の紫色のキースイッチを操作して奏法を切り替えます。音源内に記載される奏法の略字は、ＳＵ：サステイン、ＭＵ：ミュート、ＨＯ：ハンマリングオン、ＰＯ：プリングオフ、ＰＨ：ピッキングハーモニクス、ＮＨ：ナチュラルハーモニクス、ＢＬ：ブラッシングノイズ（ルーズ）、ＢＴ：ブラッシングノイズ（タイト）、ＩＵ：インアップ、ＩＤ：インダウン、ＯＵ：アウトアップ、ＯＤ：アウトダウン

【Play:HO/PO】の状態では、演奏順序や演奏フレットの位置関係等からハンマリングオンとプリングオフのどちらかを自動的に選択します。

【Play:HO/PO,HO,PO,PH,NH,SU,MU,BL,BT,IU,ID,OU,OD】では、ベロシティの強弱で音量の強弱を指定します。（【Mode:Chord/Form】での【Play:PH】は【Play:Multi】と同じ動作になります。）

ヘルプ上段②リリース（予備）（ミュートノイズ）（G#-2）

７弦をダウンチューニングしてリリースキースイッチが使用できなくなった際に使用する予備のリリースキースイッチです。

ヘルプ上段③ピックスクラッチ他（A-1）

長さや音色の違うピックスクラッチやグリッサンドなどが１つのキーに集約されています。音色はベロシティで指定します。

ヘルプ上段④フレットノイズ（A#-1）

長さや音色の違うフレットノイズが１つのキーに集約されています。音色はベロシティで指定します。

ヘルプ上段⑤フレット・ポジション選択【Posi:●fret】（C-1 ～ G#-1）（ＣＣ操作可能：初期設定 CC#63）

演奏範囲の各弦（最低音弦以外）の最低音フレットの位置を指定します。「最低音フレットの位置」とは、実物のギターでいうと「ネックを持った手の人差し指の位置」にあたります。ローポジション、ハイポジションなどの指定はここで行います。【Auto fret】がＯＮのとき、スライド奏法や演奏状況によって、自動的にポジションを変更します。ポジションを固定したい場合は【Auto fret】をＯＦＦにしてください。
【Mode:Chord/Form】ではポジションを指定する必要がなくなる為、この場所のキースイッチは各弦演奏に切り替わります。

ヘルプ上段⑥レガート機能【Legato:off,Fretnoise,Slide,soft】（A#0）（音源の収録奏法によって異なります）

演奏範囲内において１つの鍵盤を押したままもう１つの鍵盤を押すことでレガート音を発音します。
【Legato: 各奏法】のときは指定した奏法の音を鳴らします。
【Legato:Slide】では後に入力された鍵盤の音程になるフレットまで全ての弦の音を連続的にスライドします。スライド速度は後に入力された鍵盤のベロシティの強さが弱いほど遅く、強いほど速くなります。複数回重ねて入力することで、スライド中の速度変化の表現も可能です。
【Legato:Fretnoise】ではフレットノイズを鳴らします。レガートで発音するフレットノイズの長さは前ノートから後ノートまでのフレット間の距離が遠い程長く強くなります。
【Legato:Multi】のときは後に入力された鍵盤のベロシティによって奏法が変化します。
（フレット数の上限および下限を超える場合や、【Hold】オフ且つ【Mode:Poly】の場合はレガート機能は実行されません。）
レガート入力は続けて行うことも可能です。

ヘルプ上段⑦演奏モード選択【Mode:●●●】

- **【Mode:Mono】（C0）**

  各弦をモノフォニックで弾くモードです。演奏範囲の鍵盤を押すと、全ての先行音を自動停止します。
  別の弦の鍵盤も同時押しするとその瞬間だけポリフォニック動作になります。

- **【Mode:Poly】（C#0）**

  各弦をポリフォニックで弾くモードです。アルペジオなどを弾くときに使用します。

- **【Mode:Power】（D0）**

  パワーコードを弾くモードです。
  コード指定メニューが表示されます。（【Pwr:5th/5th+ オクターブ上 /4th】）
  演奏範囲は設定画面の【PowercodeLimit】の制限を受けます。

- **【Mode:Octave】（E0）**

  オクターブ奏法を弾くモードです。

- **【Mode:Chord】（B0 のベロシティ 64 以上）**

  コード等を弾くモードです。コード選択キー ＋ 演奏範囲の鍵盤毎に設定されたコードを鳴らします。演奏範囲内の全ての鍵盤にバラバラのコードを設定することもできます。

- **【Mode:Form】（B0 のベロシティ 64 未満）**

  コード等を一定したフォームで弾くモードです。演奏範囲内の最も低い鍵盤に割り当てられたフォームを維持したままフレット上をブリッジ側にスライドしたコードが割り当てられています。

（※：各奏法のストロークのスピードはノブ【STROKE TIME】で調整します。）

ヘルプ上段⑧繰り返し演奏（F0）

直前に弾かれた演奏範囲内の鍵盤を、もう一度弾きます。同じ音程を何度も連続して高速に処理したい場合などに使用します。

ヘルプ上段⑨オクターブ上演奏（F#0）

直前に弾かれた演奏範囲内の鍵盤の１オクターブ上の音を弾きます。２つ高い弦を優先指定して鳴らします。

ヘルプ上段⑩リリース

鳴っている音を全て停止し、以下のリリースノイズを発生させます。各リリース音の音量は自動的に調整されます。

- （G0）リリースと同時にアウトダウンを鳴らします。
- （G#0）リリースと同時にアウトアップを鳴らします。
- （A1）リリースと同時にストップノイズを鳴らします。
- （A#1）リリースと同時にミュートノイズを鳴らします。

ヘルプ上段⑪ブラッシング（D#0）

サステインなどを鳴らすときにブラッシング音を重ねて演奏し、【Play:Multi】などの音色の一部をブラッシング音に変更します。

- （ベロシティ 1~39）ブラッシング機能をＯＦＦにします。
- （ベロシティ 40~89）タイトなブラッシングを鳴らします。速い演奏にマッチする音色です。
- （ベロシティ 90~127）ルーズなブラッシングを鳴らします。遅い演奏にマッチする音色です。

この画像は、【Mode:Chord】の状態でヘルプを表示したものです。

ヘルプ上段⑤各弦演奏（白鍵盤全弦演奏）（C-1 ～ G-1）

【Mode:Chord/Form】特有のキースイッチです。各弦演奏範囲の青色の鍵盤は各弦に割り当てており、メインメニューの２つの【Chord】および【Form】によって指定されているコードに対応するフレットの音を鳴らします。【Instrument】時には途切れるように弾くとモノフォニックで発音し、全ての先行音を停止します。各弦演奏範囲の鍵盤を押したまま続けて弾くとポリフォニックで発音し、同弦上の先行音は停止し異弦上の音は維持します。一番左の鍵盤を押すと全ての弦をストロークします。

ヘルプ中段①クイックコード【Quick Chord】（C3）

ＯｎにすＯと、演奏範囲内の鍵盤を押すと同時に発音します。コードの指定のみで発音させたくない場合は【Quick Chord】ＯＦＦにしてください。

ヘルプ中段②コード選択【Chord:●●】（コード：C4 ～ D5）（基音：C1 ～ B3）

②の赤色の鍵盤でコード【Chord:●●(,m,7,M7,m7,mM7,dim,m7-5,aug,sus4,7sus4,6,m6,add9,user)】を指定し、演奏範囲として示されている青色およびシアン色の鍵盤（【Quick Chord】Ｏｆｆのときは赤色およびシアン色の鍵盤）で基音【Chord:●●(C ～ B)】を指定します。例えば、【Chord:m】と【Chord:C】を組み合わせると Cm になります。コードのフレット位置などは自由に編集可能です。

③
②
①
④

ヘルプ下段①弦選択【Strings:●●str】（C6 ～ G6）

指定した弦の全てのフレットが演奏可能になるように演奏範囲が調整されます。【Strings:auto】の場合は【Posi:●fret】のポジションを優先します。【Posi:●fret】を操作すると自動的に【Strings:auto】になります。

ヘルプ下段②ＰＵ選択【PU:●●】（C7 ～ D7※範囲は各音源の搭載ＰＵ数により異なります。）

ＰＵを選択します。切り替え時に音色が変わるわけではなく、切り替え後の演奏から音色が変わります。使用するＰＵはＳＥＴＴＩＮＧ画面【LoadPU:●●】でロードされている必要があります。ロードされていない音は発音しません。

ヘルプ下段③ストローク・ピッキング方向選択【Down/Up/Alternate/Economy/Auto Alt./Auto Eco.】（G7 ～ C8）

ストローク・ピッキング方向を指定します。ダウン、アップ、オルタネイト、エコノミー、自動復帰オルタネイト、自動復帰エコノミーから選択します。自動復帰は一定以上の時間が経過すると自動的にダウンストロークになります。設定画面のオプション【StrokeTiming:●/●】で指定したタイミングで自動復帰します。

メインメニュー④ホールド【Hold】（初期設定 CC#64）

【Hold】ＯＮの状態では演奏範囲の鍵盤を離しても音が鳴り続けます。【Hold】ＯＦＦにすると鍵盤を離すと同時に音も止まり、リリースのノイズを発生させます。【Hold】ＯＦＦの状態では鍵盤を押し続けていないと音が鳴らないため、スライド奏法の扱いが難しくなるという欠点があります。また、押し続けていないと音が鳴らないという特性上、【Mode:Poly】では、複数の弦をポリフォニックに鳴らす入力とレガート入力の方法が同一となってしまうため、【Mode:Poly】でのレガート入力は無効化され、使うことができません。

■ノブの機能

この画像はＰＬＡＹ画面に表示されるものです。

①ノブ【STROKE TIME】、②【STROKE TIME 2(Random)】

複数の弦をストロークする際、弦から弦までに何ｍｓかかるかを指定します。
①で基準となるスピードを決め、②でランダム性を与えます。例えば、①10ms②(0 - 5.0)ms の場合、10.0ms-15.0ms のランダムな秒数でストロークスピードが変化します。②(0 - 0.0)ms にすると、ランダム性はなくなり、10.0ms 固定となります。

③ノブ【VIBRATO SPEED】

ビブラートのスピードを指定します。
ビブラートを行うＣＣは設定画面のコントロールチェンジ設定【Vibrato:CC#●】で指定します。

④メニュー【Sync】

【VIBRATO SPEED】を周波数で操作するか、テンポシンクしたものにするかを指定します。

■コード検索機能

この画像は、【ModeChord/Form】で表示されるものです。

【Mode:Chord/Form】時には、コードの検索機能が表示されます。

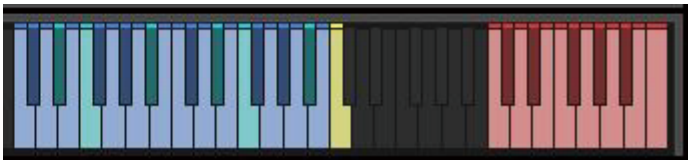
①にて検索キーを指定します。②は直前に弾かれた音の構成音（C ～ B）を表示するものです。

記号：「⊇」とは、部分集合（含む）を意味し、①が②を含む場合適合とみなします。

記号：「⊆」とは、部分集合（含まれる）を意味し、①が②に含まれる場合適合とみなします。

画像９における「⊇」の部分は、クリックして「⊆」に変更可能です。

検索に適合するコードが格納されている演奏範囲の鍵盤を、シアン色で表示します。



■コード編集機能

この画像は、【ModeChord/Form】の状態で【CHORD EDIT】を押したときに表示されるものです。

【Mode:Chord/Form】の状態で【CHORD EDIT】を押すと、コード編集モードになります。
フレットボード上に灰色のポインタが表示されており、ポインタを選択すると一番上のように青色になります。ポインタは Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら選択すると複数選択可能です。
選択されたポインタは、画像内①「＜」「＞」で位置を変更できます。Alt キーを押しながら操作すると、全ての弦のフレット位置を同時に操作できます。
画像内①「×」を押すとポインタも × になりフレットボード外に移動し、発音しなくなります。
②「Reset」を押すと、編集中のコードの全ての弦のポインタが初期値にリセットされます。
③のメニューは、コードプリセット機能（インサート機能）になります。編集中のコードに、選択したコードプリセットを適用します。③の左側メニューで基音（C～B）を指定し、③の右側メニューでコード（,m,7,M7,m7,mM7,dim,m7-5,aug,sus4,7sus4,6,m6,add9, フレット）を指定します。
【mode:Chord】時のコード編集は、メインメニューの２つの【Chord】によって指定されたコードに個別に適用されます。よって、【Chord:m】【Chord:C】の鍵盤であっても、コード編集をすることで「Cm」の表記とは異なる内容のコードを格納することも可能です。（表記を変えることはできません。）
【mode:Form】時のコード編集は、メインメニューの【Form】によって指定されたフォームの演奏範囲内の最も低い鍵盤のコードフォームに適用され、演奏範囲の各鍵盤の基準となります。フレット範囲を超える場合は、フレット上限に自動調整されます。

■ＶＯＬＴＯＮＥ画面

この画像は、ＶＯＬＴＯＮＥ画面を表示したものです。

左下の「VOL,TONE」ボタンを押すと、ＶＯＬＴＯＮＥ画面が表示されます。

①スイッチ【各 PU PHASE】

各ピックアップの位相を反転します。「Normal」は通常の位相で「Reverse」は反転位相です。
主にフェイズアウト効果を得るために使用します。

②ノブ【各 PU VOL】 ③ノブ【各 PU TONE】

各ピックアップのボリューム、トーンを調整します。

④メニュー【カーブ選択（Linear/Light）】

ベロシティに対するボリューム変化のカーブを変更します。Linear はベロシティに対して直線的に音量が変化しますが、Light は軽いタッチでも大きい音量になります。

⑤ノブ【VEL-VOL】

ベロシティに対するボリューム変化量を調整します。

⑥ノブ【RELEASE】

リリースの長さを調整します。

⑦ノブ【MASTER VOL】（初期設定 CC#11） ⑧ノブ【MASTER TONE】

マスターボリューム、マスタートーンを調整します。

⑨パン

各ＰＵのパンを調整します。

■設定画面

この画像は、設定画面を表示したものです。

左下の「SETTING」ボタンを押すと、設定画面が表示されます。
メニュー内の「*」が付いている値は初期設定値であることを示しています。

①【BendAutoStr:Last/High/High+/Low】自動チョーキング弦選択

コントロールチェンジ設定画面の【BendAuto（初期設定：ピッチベンドのプラス値）】で操作対象になる弦を選択します。

【Last】は最後に弾いた弦【High】最も高い弦【High+】２番目に高い弦【Low】最も低い弦を選択します。演奏範囲の鍵盤を弾く度にチョーキングする弦を自動的に選択しています。１つの弦しか音が鳴っていない場合はその弦を選択し、２つ以上の弦が鳴っている場合は選択したアルゴリズムに従い弦を自動選択します。

自動選択が上手くいかない場合、【BendAuto】で設定されているコントロールチェンジの値を一度０にすることで自動選択をリセットします。

自動選択弦とは異なり、各弦を個別にチョーキングしたい場合は、【Bend1str ～ 7str】で指定したコントロールチェンジを入力してください。各弦毎のチョーキング数値が【BendAuto】と【Bend1str ～ 7str】で重なった場合は、数値の高い方が優先されます。

②【BendCurve】

チョーキングのカーブを指定します。Linear：リニア、Quadratic：２次曲線的カーブ

③【BendRange:●fret】

チョーキングのベンドレンジを指定します。

④【-P.BendRange:●fret】

ピッチベンドのマイナス値のレンジを指定します。

⑤【+P.BendRange:●fret】

ピッチベンドのプラス値のレンジを指定します。

⑥【Humanizer(ms)】

ランダムに選択された時間（ｍｓ）、演奏範囲内の入力を遅延させてタイミングをずらします。【Humanizer:10ms】を選択した場合は、０～１０ｍｓの間のランダムな遅延時間を発生させます。

⑦【Humanizer(dB)】

ランダムに選択された音量（ｄＢ）を全ての音に適用します。【Humanizer:5dB】を選択した場合は、０～５ｄＢの間のランダムな音量変化を全ての音に与えます。

⑧【Humanizer(cent)】

ランダムに選択されたピッチ（ｃｅｎｔ）を全ての音に適用します。【Humanizer:5cent】を選択した場合は、０～５ｃｅｎｔの間のランダムなピッチ変化を全ての音に与えます。

⑨【StrokeTiming:●/●】

ストロークのタイミングを選択できます。ストローク・ピッキングの方向【Pick:Auto Alt./Auto Eco.】のときに【StrokeTiming】で指定した時間が経過するとダウン方向に自動復帰します。

⑩【PowercodeLimit】

【Mode:Power】のときに、演奏範囲を低音弦のみに制限します。【PowercodeLimit:full】に設定すると制限が解除され、高音弦（１弦＋２弦など）での 5th や 4th が可能になります。

⑪【SlideNoise】

ＯＮにするとスライド奏法時にフレットと弦がぶつかるときに発生するノイズを発音します。

⑫【MuteMono】

ＯＮにするとパワーコード奏法やオクターブ奏法でのブリッジミュートやブラッシング演奏時にルート音のみを発音します。

⑬【7stringsChord】

ＯＮにするとメインメニュー【Mode:Chord/Form】時に７弦の音も鳴らします。ＯＦＦのときは７弦は弾かず、１～６弦のみでコードを弾きます。

⑭【RealStroke】

ＯＮにするとアップストロークの際ストローク幅が広い場合に低音弦を弾かないようにします。

⑮【OpenPriority】

ＯＮにすると【Mode:Mono/Poly】時、開放弦の音を優先的に鳴らします。

⑯【6string/7string】（※収録弦数により異なります）

インストゥルメントの弦の数を変更します。

⑰【Instrument/Keyboard】

【Instrument】収録楽器に忠実に同弦上の音を 2 つ以上鳴らないように自動的にミュートします。

【Keyboard】ピアノやキーボードに近い演奏ができるようにします。

⑱【LoadPU】（※収録ピックアップ数が 1 つの製品では、この機能を使用できません。）

ピックアップを制限してメモリの使用量を抑えます。【LoadPU】で指定したピックアップの音色をロードし、それ以外の音色をパージします。

⑲【Front/RearCH】

ピックアップ毎にアウトプットチャンネルを指定してパラアウトする場合に使用します。音源起動前に、ＫＯＮＴＡＫＴ側でアウトプットチャンネルの設定を行っておくことが条件となります。設定が完了後、音源起動時にメニュー内にチャンネルが追加されます。【Front/RearCH:-】にすると、デフォルトの設定に戻ります。アウトプットチャンネルを変更すると、インサートエフェクトがかかる前の出力が指定したチャンネルに出力されます。

各弦チューニング

各弦ごとにチューニングを変更します。チューニングを変更すると、コードデータが選択したチューニングに合わせて初期化されます。演奏範囲がリリースキースイッチに被る場合、演奏キーが優先され、リリースキースイッチが使用できなくなります。その場合は予備のリリースキースイッチを使用してください。

コードデータ保存・読み込み

・Save Chord Data：現在のコードデータを nka ファイルに保存します。

・Load Chord Data：保存したコードデータを nka ファイルから読み込みます。

マイクロチューニング（音律調整機能）

各音程をセント単位で調整できる機能です。右のテーブルをドラッグして値を調整します。

【Key:C~B】を選択することで調整が適用されます。【Key:Equal】を選択すると平均律になります。

【-LoadPreset-】メニューからプリセットを選択でき、【Save >>> User12345】で現在の値を保存します。

ユーザープリセットデータは各音源の Library フォルダ内の Data フォルダに保存されます。

①【Vibrato】

ビブラートをかけるコントロールチェンジを指定します。全ての音をビブラートします。

②【BendAuto】

自動選択弦のチョーキングをかけるコントロールチェンジを指定します。自動選択のアルゴリズムはオプション設定画面の【BendAutoStr】で選択できます。

③【Bend1-7str】

１～７弦のチョーキングをかけるコントロールチェンジを指定します。同じ弦で複数の音が鳴っている場合は最後に発音した音のみをチョーキングします。

【BendAuto】の選択弦と被った場合は数値の高い方が優先適用されます。

④【Stroketime】

【STROKE TIME】ノブ（大）を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑤【Stroketime2】

【STROKE TIME】ノブ（小）を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑥【Vib.Speed】

PLAY 画面の【VIBRATO SPEED】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

⑦【MasterVol】

VOLTONE 画面【MASTER】の【VOL】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

⑧【MasterTone】

VOLTONE 画面【MASTER】の【TONE】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

⑨【FretPosi】

メインメニュー【Posi:●fret】を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑩【Autofret】

メインメニュー【Aito fret】を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑪【Hold】

メインメニュー【Hold】を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑫【Monophonic】

強制的に【Mode:Mono】にするコントロールチェンジを指定します。値が６４以上で強制モノフォニック、６４未満で強制モノフォニックが解除され元に戻ります。

⑬【Multi/All Vol】

【Play:Multi/All】ではベロシティで奏法を指定するためベロシティでは音量を調整できませんが、コントロールチェンジをベロシティの代用として指定できます。

⑭【PH+SU Vol】

ピッキングハーモニクスに混ぜるサステインの音量を操作するコントロールチェンジを指定します。

■クレジット、お問い合わせについて

アートワーク（パッケージやＧＵＩの３D/２ＤＣＧ）、プレーヤー、レコーディング、スクリプト、エンジニア：渡部浩成

※「KONTAKT」は Native Instruments 社の製品です。

製品の不具合等のお問い合わせは Versus Audio サイトの「サポート」>「お問い合わせ」内のメールフォームから受け付けております。

また、デモソング [※] やご使用頂いた感想などもお待ちしております、ユーザーの皆様より頂きましたご意見ご感想等の各種情報につきましては、今後の運営の参考とさせて頂きます。

[※：当メールフォームにはファイル送信機能がついておりません。必須ではありませんが該当する音源のみのトラックもありますと幸いです。]

Versus Audio

URL:　https://versusaudio.com/

mail:　info@versusaudio.com